



TITLE:

富山縣ノ翁媼調査

AUTHOR(S):

財部, 静治

---

CITATION:

財部, 静治. 富山縣ノ翁媼調査. 經濟論叢 1916, 3(5): 771-776

ISSUE DATE:

1916-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127106>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號五第 卷三第

行發日一月一十年五正大

## 論說

### 節用論

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(一)

でぐゐつゝひゆーむノ經濟學說(二)

『ころに』の意義ニ就キテ

課稅ト獨占價格(三)完

代表紙幣ト獨立紙幣(三)

戰後ノ人口増加政策(三)完

米券倉庫ヲ論ス(二)

## 雜錄

公營電物ニ關スル美濃部、織田、松本三博士ノ  
所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(一)

金紙ノ開キト物價騰貴トノ關係

米國ニ於ケル地方財政審査所ノ發達

富山縣ノ翁媼調査

經濟漫錄(一)

田島 錦治

神戸 正雄

福田 德三

山本美越乃

高田 保馬

作田 莊一

米田庄太郎

河田 嗣郎

福田 德三

河上 肇

神戸 正雄

財部 靜治

瀧本 誠一

## 富山縣ノ翁媼調査

財 部 靜 治

一、不肖曩ニ天壽ノ說一編ヲ草シテ其中ニ高齢者統計ヲ議シ「所謂國勢調査ノ實施ヲ急カサル爲政者ニ對シ」少シク進言セル所アリシモ俚辭遂ニ名相ノ容ルル所トナリシ形跡ナキヲ歎セルコト久シ唯其間賢明ナル東京市政理事者ハ「市事業完成計畫ノ上ヨリモ是非共」市人口實地調査ノ必要迫レリトシ之カ實施ノ計畫ヲ立テヌト報セラルルアリ又大阪府衛生會ハ夙ニ本年四月高齢者衛生狀態調査表及記入例ヲ定メ着々其實施ノ步ヲ進メツツアルヲ見竊カニ其實施完成ヲ

祈念シ僅カニ慰メツツアリシニ俄然「富山縣高齢者統計」ヲ其調査用小票一葉ト共ニ同調査主査者タル同縣專任統計家國澤彌吉氏ニヨリ近日寄贈ノ榮ニ接シタルヲ悅フ事大ナリ越中富山ノ反魂丹ニハ起死回生ノ特效ナシトスルモ本統計ニ注目スヘキモノ多シト思ヒシ儘不取敢短編ヲ草シテ小評ヲ試ム。

二、同調査ハ大正四年十月十日ノ現況ニヨリ「數ヘ年」(同書四頁參照)八十歳以上ノ現住者ニ及ホサレタリ而モ亦「戸籍上八十歳以上ニ登載セラレナカラ事實然ラサルカ爲ニ木杯ノ下賜ヲ拜辭シタルモノ男二十七名女二十八名計六十五名アリ就レモ之ヲ計入セス」トハ其凡例中ニ記スル所タリ右「拜辭シタリ」ト言ハルル者ノ中ニハ戸籍面ニ登載セラレ乍ラ所在、年齡等不明又ハ曖昧ノタメニ「拜辭セシメラレシ」者ヲモ含マサルヤ疑ナキ能ハス否同シ事由ノタメニ初メヨリ調査ニ入ラサリシ戸籍面現住者モ多カリシナルヘク又「拜辭セサリシ」者ノ年齡ニ付事實ニ相違スル點全ク存セサルヤ疑ヲ挿ムノ餘地アリ本籍

1) 本年八月十四日讀賣新聞記事參照

2) 本年四月十五日大阪朝日新聞同六月七日大阪毎日新聞記事參照

人口ト出寄留人寄留加除トニヨリ算定サルヘキ  
 現住人千中現住高齢者明治二二年(一八八九)二月  
 一日憲法發布式日四・六六人同二七年(一八九四)  
 三月九日 明治天皇銀婚式日四・七一人昨年(一九一  
 五)十一月一日 今上陛下御即位式日五・一四人  
 ニシテ其遞増ノ趨勢并ニ約四半世紀間ニ於ケル  
 變化ヲ富山縣人口移動ノ實況ト照シ考フル際同  
 縣一般人口統計ニ付テモ全國統計ニ於ケルト同  
 樣信賴價值乏シキコトヲ想ハシムルカタメニ其  
 感殊ニ深シ果シテ然ラハ同高齢者統計ハ「最モ  
 精確ナリ」トハ輕斷シ得サルヘシト雖モ其計數  
 ハ事實木杯下賜ノ「恩賜ヲ蒙リタル」者ヲ計上セ  
 ル結果ナレハ本邦一般人口靜態統計本籍人口年  
 齡別表ヲ本トセル本籍高齢者統計ニ比スルトキ  
 ハ一層確實ナル新材料ナリト謂ヒ可シ此事タル  
 本調査上査定シ得タル高齢者數四、一九六人タ  
 リ大正二年末ノ同縣本籍高齢者數八、八三四人  
 同警察署調現住高齢者數四、八四一人ニ比シ其  
 數大ニ渺キヲ見テモ察知シ得ヘシ。

三、同調査ハ調査用ノタメ特ニ縱六寸七分横

八寸ノ小票ヲ調製シ實地調査ノ方針ヲ貫徹セン  
 トセリ、而シテ其調査ノ事項ハ(イ)住所氏名  
 (現住所)(ロ)體性(ハ)生年月日(「戶籍ニ誤アリト認メ  
 ラルル場合ハ事實ノ年月日ヲ記入」セシムルコトトナセル以外  
 ニ)父何歳、母何歳ノ時生ルヲモ問ヘリ)(ニ)健康(健康、  
 老衰、病弱ニ分チ實査當日ノ現況「ニ就キ之ヲ調ヘ健康ト老衰  
 トハ年齡ニ比例シテ判定スヘシ」トシ病弱ニ付病名ヲ問ヘリ)  
 (ホ)父母ノ死亡年齡(大凡ノ何十歳臺ノミナ記スモ宜シ  
 又父母生存セハ其文字ノ上ニ(生字)ヲ記スヘシ)トス(ヘ)祖  
 父母ノ死亡年齡(小票内ニ明記ナキモ前項同様ノ調査心得  
 ハ同シク適用サレシモノナルヘシ)(ト)兄弟姊妹(生存男  
 何人、女何人、死亡男何人、女何人、計何人)ヲ問フコト「其  
 人數ニハ本人ヲ計入シ」異父、異母及義ノ兄弟姊妹ハ計入スヘ  
 カラス」トシ別ニ又「本人ハ其第何番」ヲ問ヘリ)(チ)子(此  
 項目ハ凡例中ニ掲ケラレサルモ小票ノ項目及製表ノ結果ニ照ス  
 ニ之ヲ問ヘルコト明白ナリ生存男何人、女何人、死亡男何人女  
 何人計何人ヲ問ヒ「養子ヲ計入スヘカラストス」)(リ)嗜好  
 (酒ノ多量少量、煙草ノ多量少量、無)ヲ問ヒ「一生ヲ通シタ  
 ル嗜好ヲ記スヘシ」トシ)(ヌ)住家(市町、村里、山村、海濱)  
 ノ別ヲ問ヒ「一生中最も永ク住居セシ所ニ依」リタリ)(ル)縁

3) 統計書二三頁參照

4) 二計數ハ大正二年末日本帝國人口靜態統計第八表及第二十表ニヨリ算定ス

事（有配偶、無配偶）ヲ問ヒ別ニ「初婚ノ年齡、配偶者ト同棲ノ年齡、同棲セシ配偶者數」ヲ問ヘリ（ヲ）職業（一生中最モ長ク從事セシ業務ヲ明瞭ニ記スヘシ）トス（ヲ）貧富（富、上、中、下、極貧）ノ五等ニ分ツコトトシ「町村ニ付テハ戶數割課額等級何等中第何等」並ニ「同上賦課歩合何戸何分」ヲ問ヒテ之ヲ分チ市ニ付テハ「見込ニ依リ」テ之ヲ分ツコトトセリ）就中「ハ」多クハ不詳「ノタメ」ル「中」同棲セシ配偶者數ハ事實ヲ告ケサル「者アリシタメ」製表ヲ見サリシハ凡例中特ニ說ケルカ如クナルノミナラス同シク項目中掲ケラレツツ製表ナカリシモノトシテ病弱者男二七人女六五人（第二表參照）ノ病名別表並ニ兄弟姉妹ノ生存及死亡別表ヲ舉クヘシ其外「ト」ニ於テ異父及異母義兄弟姉妹ヲ除外セルモ遺傳研究材料ヲ豊カナラシムルノ主意ヨリセハ寧ロ之ヲ問フヲ可トスルカ如ク思ハル又「ル」中初婚當時ノ齡差ヲ問フノ用意アリシトセバ其結果ノ效用ハ當ニ緣組上「四め十め」ヲ厭フノ民俗ニ裏書スルノミニ止マラサリシナラン其外貧富別ヲ分テル點ニ付其區別ノ標準ヲ明確ニ示ササリシハ惜シムヘク嗜好ノ調査上酒、煙草ノ消費ヲ問ヘルノミニテ他ノ數品假

令ハ菓子、果物、野菜、魚肉等ノ消費ニ及ホササリシモ亦然リ而シテ其調査上「大凡」多量、少量「最モ永ク」見込ニ依ル「ト」言フカ如キコトヲ甘ンシテ認メタルハ元來一般統計トシテハ忌ムコトナレト本調査ノ如キ特殊調査トシテハ寧ロ之ヲ寬恕スヘク一般ニ又尋問サレタル事項ハ滯リナク其調査ノ目的ヲ達シタルモノノ如ク從ヒテ又適當ノ製表ヲ見ルコトトナリシハ多トスヘシ特ニ百有餘歳者ノ住所姓名ヲ特記シ（四頁參照）出生月別ニ付陰曆ニヨレルノ事實ヲ忘レス（二五頁參照）未婚高齡者ノ內譯（二五頁參照）ヲ掃ミタルカ如キ編纂者ノ用意到レルヲ想フヘシ。

四、調査ノ結果ニ付其梗概ヲ窺フニ高齡女數大超過ヲ示シ（四頁二五頁參照）年齡ヲ増スニ從ヒ翁媼數遞減シ（第一表及二五頁參照）尙同表九十一歳女計二六ハ三六ノ誤算又ハ誤記ナルヘシ）長壽ハ農業従事者ニ多ク（第一三表及三七頁參照）尤モ精密ニ察スル場合ニハ本統計記述文中ニ試ミタルカ如ク高齡者職業別百分比ト現住人口職業別百分比トノ對照ニヨラスシテ各種有業者總數ト同業高齡者トノ比例ニヨルチ可トスヘシ又同調査ニテハ一生中最モ永ク從事セシ業務ニヨレルハ上説ノ如クナルニ拘ハラス高齡者無職業ノ其總數ニ對スル割合一五・〇九%ヲ占ムルハ信シ難シ推フニ無

職業ニアラスシテ職業不詳少クトモ不定多カリシ結果ナラサルヲ富豪、極貧者ニ少クシテ中等下等ノ分限者ニ多キ(第一四表及三七、三八頁參照)。職業ニツキテ議セルト同一ノ注意ヲ加ヘ得ヘシノ事實ヲ語ルカ如キハ一般ニ認メラルル事ニ有力ナル一舉證ヲ與フルモノト言フヘシ。其外一讀ノ際氣付ケル點興味多ク思ヒシ點等ヲ數フルコト、センニ第一ニ先ツ注意スヘキハ高齢者年齡別ノ統計ナリ試ミニ之ヲ大正二年末帝國人口靜態統計ニ掲クル富山縣本籍高齢者及同警察署調現住高齢者年齡別ニ比較スルニ左表ノ如シ(年次異ルヲ以テ素ヨリ精密ノ比較ニ非ス又一月一日ニ數ヘ年二歳ト書フハ前年中ニ生レタル者ニシテ換言スレハ前年末ニ滿零歳乃至一歳今年末ニ滿一歳乃至二歳タルヘキ者ナリ此事實ニ鑑ミ大正四年調査ノ分ハ八一歳ヨリ初メテ計算ニ入レタリ計數ノ出所ハ前掲ノ如シ)

大正四年現住調 大正二度末警察署調 大正二年末本籍調

年齡	男	女	計	男	女	計	男	女	計
〇—一八	9011	5926	14937	11543	7331	18874	10048	6233	16281
一九—二九	2131	1482	3613	2510	1611	4121	2002	1261	3263
三〇—三九	1001	681	1682	1130	731	1861	881	531	1412
四〇—四九	401	281	682	431	281	712	381	231	612
五〇—五九	101	61	162	111	61	172	111	61	172
六〇—六九	11	6	17	11	6	17	11	6	17
七〇—七九	1	1	2	1	1	2	1	1	2
八〇—八九	1	1	2	1	1	2	1	1	2
九〇—九九	1	1	2	1	1	2	1	1	2
一〇〇以上	1	1	2	1	1	2	1	1	2
計	11543	7331	18874	10048	6233	16281	9011	5926	14937

三種計數ノ相違甚シク本籍調ノ分ニ高齢男超過ノ奇觀ヲ呈スルヲ見テモ亦本邦現行人口調査ノタヨリナキコトヲ熟々感スルノ外ナク前稿大壽ノ說ノ趣旨ヲ承ケ人口實地調査事業ヲ急クノ急務ナルヲ想フ。次ニ出生月別ニツキ最モ多キハ舊曆三月ニシテ最モ少キハ同シク四月ナリト言フカ如キハ(第二表及二五頁參照)出生一般ニツキ觀察シ得ヘキ事實ト大差ナク出生ノ時ニ於ケル父母ノ年齡ニ依リ分チタル高齢者ニツキ父母共二〇歳未滿タリシモノ男七人女三人アルハ注目スヘク父母年齡ノ組合セ上高齢者ニ最モ富ムモノ父二五乃至三〇歳母二〇乃至二五歳ノ組合セニアリ父三〇乃至三五歳母二五乃至三〇歳ノ組合セ之ニ次ク(第三表及二六、二七頁參照)ハ興味アル事實ナリ又父母ノ死亡年齡ニ依リ分チタル高齢者中「父母共ニ五〇歳以内ニテ死亡セシモノハ僅ニ四・〇三%父又ハ母ノ一方ノミ五〇歳以上ノモノハ二四・二八%父母共ニ五〇歳以上ノモノハ七一・六八%」(第四表及二八頁參照)ナルノ事實ハ遺傳研究材料トシテ有用ナルヘシ。兄弟姉妹ノ

多寡ニ依リ分テル結果四人兄弟ヲ最高トシ五人兄弟之ニ次キ獨リ子（報告眞實ヲ穿ツヤハ審査ノ餘地アルヘシ）ナルハ總高齡者中僅カニ四・八七%ニ過キサルヲ示セルハ（第五表及二八、二九頁參照）兄弟多クシテ競争幼少ノ間ヨリ行ハルヘキ家庭ニ育ツノ寧ロ幸福ナルヲ語ルモノトスヘク之ト共ニ高齡者（出生順位ノ序數上長子最モ多ク次子三子之ニ次キ末子最モ少キノ事實ヲ見ルハ（第六表及二九、三〇頁參照）大ニ注意スヘシ高齡者既ニ兄弟姉妹ニ富メリ同シ事實ハ其子ニ就キテモ亦之ヲ窺ヒ得ヘシ乃チ子ノ數ニヨリ高齡者ヲ分ツニ「子ナキモノ及子少キモノ」ハ「少數ニシテ三人乃至七人ノ子アルモノ最モ多シ」（第七表及三〇頁參照）配偶者ノ有無調査上「老後家」高齡者中ニ多キハ（九七・〇三%）爭ハレサル事實ナルヘク唯一般高齡者中ノ有配偶者割合ニ少ク（二六・二八%）「若前百迄わしや九十九迄」ノ俚語現實ニ裏書サレサルハ聊カ疑フノ餘地アリ（第八表及三一、三二頁參照）其未婚者男一〇中僧三人、女一〇中尼六人タルハ（二五頁參照）職業ト壽命トノ關係研究上ノ一材料タラシ

メ得ヘシ配偶者ト同棲ノ年數ニヨリ分テル結果同棲四〇年以上ノ者過半數ヲ占メ（五七・五九%）就中五〇年以上ノ者其過半ナルノ事實（高齡者總數ノ三二・五八%）ヲ見米壽ヲ祝ヒ得ルノ望ハ金婚式ヲ舉ケ得ルノ事實ト關係スルコト多キノ蓋然性ヲ窺知スベシ住地及健否ニ依リ高齡者ヲ分チ海村及山村ニ健康高齡者少キノ事實ヲ示シ（三三・三四頁參照）タレハトテ海村及山村總住民地トノ比較ヲトリ之ヲ普通町村ニ關スル同種計數ト比較セサル限り未タ俄カニ兩者ノ優劣ヲ判斷シ得サルヘシ之ニ類似セル考察ハ恰モ亦高齡者市郡別ノ調査ニツキテ施シ得ヘシ乃記述文中現住千人ニ對スル高齡者歩合富山市及高岡市ニ少キノ事實ヲ示セルモ（二四頁參照）現住人口ノ計數ニ審査補正ヲ加ヘタル上ナラテハ田舎住居ニ延命ノ得アリト輕斷シ難シ蓋シ假ニ都市現住人口報告ヲ眞實以上ニ過大ナラシムルノ事由アリトセハ右ノ歩合ヲ計算上過少ナラシムヘキヲ以テナリ之ト同時ニ此種ノ考察上注意スヘキハ輓近生活上移動繁キノ事情ニ鑑ミ其現住所地ヲ調査スルヨリ

モ寧ロ成人セル地方ヲ調査スル方却リテ有益ナル結果ヲ擧ゲ得ヘキコトナリ唯富山縣ノ實狀ニ照シカカル調査ヲ必要トスルヤ否ヤハ別論ナリ。

五、霧嶺調査ノ眼目ヨリセハ當ニ統計調査ノミナラズ特例記事個別詳查ノ方法ニヨリ寧ロ有益ナル結果ヲ擧ゲ得ヘキモノアリ表中百歳以上ノ者ノ住所姓名ヲ併記スルカ如キ方法ニ一步ヲ進メ其生ヒ立、日常生活萬端ノコトヲ詳シク調査スルカ如キハ之ナリ特ニ朝陽禮拜、神詣、寺參リ、特殊嗜好品、庭掃除又ハ園藝、裁縫、作歌ノ趣味、起床、就眠時等ヲ問フハ本邦生活狀態ノ下ニアリテハ適當ノ調査事項タルヘシ此意味ニ於テ富山縣ノ調査ニ對シ別ニ尙希望スヘキ點渺キニ非スト雖モ兎ニ角卒先シテ高齢者調査ニ當リ種々有益ナル結果ヲ世ニ供セル同縣統計家並ニ之カ命令監督ノ地位ニ立テル同縣理事者ノ功勞輕視スヘキニ非ス唯報告書ニ編纂者ノ姓名ヲ掲ゲサリシハ惜ムヘクコハ統計作製者ノ責任ヲ明カニスルタメニモ必要ナルノミナラス其

人ノ功ヲ錄スルタメニモ有用ナリ。若シ夫レ右報告書ノ公刊ニヨリ予輩統計ノ研究ニ從事スル者カ受ケタル感想ニツキテハ各府縣各地方自治體ノ統計家各位ト共ニ之ヲ語ルノ念ナキ能ハス夫レ官ハ一屬、公職ハ一小吏ニ過キストスルモ其職務ニ趣味、至誠ヲ伴ハンカ其結果トシテ生ルル果實ニハ永キ生命アリ之カタメニ學界否一般ニ世道人心ヲ裨益スルコトハ誠意ナキ大官一片ノ訓令(カカル例ハ我所謂神國ニハナキカ當リ前ナレハ異國ニコソアラフメト假定シテイフ)ニ勝ルコト數等ナリ此意味ニ於テ地方統計家各位カ研究ノ趣味ト執務上ノ誠意トヲ傾注セラレ自發的ニ統計ノ刷新ニ勉メラレンコトヲ切望ス福錄何ソ俄カニ酬ハレサルヲ憂ヘン人之至樂莫レ如ニ身無レ病而心無レ憂トハ蘇東坡ノ言ナリ職務ニ盡シテ心ニ憂ナク安心アラハ樂其中ニアリ福祿ニ飽クノ徒モ一倖シク欲シテ而シテ得難キ」ノ長壽ハ却リテカカル人々ニ酬ハルルノ蓋然性モ多キニ於テオヤ。